

年度末だよ
大集合!

SIAF LAB の年度末、 専門家と考える2日間。

2016年

3月26日(土) 札幌市資料館1階 SIAF ラウンジ

1 見えない展覧会 第5回「わたしたちに許された特別な時間」 15:00~16:30 ※要予約

ゲスト：竹内公太（アーティスト）

「見えない展覧会」は見るができない展覧会です。実際の作品を鑑賞する代わりに、言葉や映像によって毎回のテーマに沿った作品を紹介します。

最終回の第5回は、前半に「時間」に関する作品やアーティストを紹介します。そして後半は、ゲストにアーティストの竹内公太氏をお迎えします。震災以降、東京から福島県いわき市に移り住み、制作と発表を続ける彼の「いま」を生きる姿勢、そして「過去」と「未来」への眼差しについて、お話を伺います。

2 ラボの日 総決算！今年度の最終回はメディアアートを考える。17:00~19:00

ゲスト：久保田 晃弘（多摩美術大学教授、アーティスト）

モデレーター：SIAF ラボメンバー

世界的なメディア・アートの祭典、アルスエレクトロニカで本年度優秀賞に選出された衛星芸術プロジェクト《ARTSAT1:INVADER》のディレクターを務める久保田晃弘氏は、SIAF ラボのアドバイザーでもあります。この久保田氏をゲストに、この受賞作品を含めた最新のメディア・アートの話を聞くとともに、SIAF ラボの活動を総括します。

3月27日(日) 札幌市資料館2階 研修室

3 アート界隈の人々 第4回「レジデンスって何ですか？」 13:00~14:30

ゲスト：中村政人（アーティスト、アーツ千代田3331 統括ディレクター、東京藝術大学教授）、八巻真哉（京都府文化スポーツ部文化スポーツ総務課）、モデレーター：小田井 真美（さっぽろ天神山アートスタジオプログラム・ディレクター）

なかなか表には出ないけれど、アートの現場には欠かすことの出来ない一線で活躍する「アート界隈の人々」をゲストに迎え、ご紹介するシリーズ。

最終回となる今回は、「レジデンス」に異なる立場で関わる3名のゲストを迎え「レジデンス」を考える特別版として開催します。SIAF をきっかけに、さっぽろ天神山アートスタジオという「アーティストという人と市民との“人と人の交流”が生まれる、札幌にはこれまでなかった新しい文化芸術施設」がオープンしました。この施設でアーティスト・イン・レジデンスの専門ディレクターとして関わっている小田井真美氏は、実際の現場に関わりながら、国内で増加している「アーティスト・イン・レジデンス」の今を鋭く捉えています。その視点を軸に、一人歩きをしつつある「レジデンス」という言葉の様々な解釈、現代における広がりや捉え直しを考えてみる意欲的な機会が、「アート界隈の人々」の最終回となります。アーティストであり、かつ複合的な文化活動施設アーツ千代田3331の統括ディレクターである中村政人氏と、行政の立場から文化プログラムやアーティスト・イン・レジデンス事業に関わる八巻真哉氏をお迎えして、札幌、東京、京都の事例とともに、いま、そしてこれからの「レジデンスって何ですか？」を考えてみます。

4 SIAF ラボ報告会 14:40~15:10

報告者：漆 崇博（SIAF ラボマネージャー）+ SIAF ラボプロジェクトメンバー

今年度の活動を振り返り、次年度のプログラムを紹介します。

<特別シンポジウム>

5 「なぜ石は資料館に置かれているのか〜《一石を投じる》を巡って」 15:30~17:30

アーティスト：島袋道浩（美術家）、ゲスト：村田 真（美術ジャーナリスト）、モデレーター：小田井 真美（さっぽろ天神山アートスタジオプログラム・ディレクター）

SIAF2014 で展開された作品《一石を投じる》のコンセプト、芸術祭終了後に資料館に移設された経緯などアーティスト自ら解説し、この作品をどのように展開していくか議論を深める第一歩とします。

竹内公太 (たけうちこうた/アーティスト)

1982年生まれ。東京、福島を拠点に活動。都市風景や歴史の痕跡への視線を追認するパフォーマンスを元にした映像、油彩画、インスタレーションを制作。2011年の日本の原発事故下のライブカメラに映った人物の代理人として映像を発表し、2014年 "Good Morning Mr. Owell 2014" (韓国、ナムジュンパイクアートセンター)、2013年 "Now Japan" (オランダ、Kade) 等に参加。自身も作家として2013年 "メディア/アートキッチン" (バンコク、バンコクアート&カルチャーセンター)、"Mot コレクション After Images Of Tomorrow" (東京都現代美術館) や、2015年から福島県の帰還困難区域で開催されている展覧会、"Don't Follow the Wind" にも参加。

久保田 晃弘 (くぼたあきひろ/多摩美術大学教授、アーティスト)

1960年生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース教授・メディアセンター所長。SIAF コミッティーメンバー。世界初の芸術衛星と深宇宙彫刻の打ち上げに成功した衛星芸術プロジェクト (ARTSAT.JP) をはじめ、バイオメディア・アート (BIOART.JP)、自然知能と知能の美学、ライブ・コーディングと自作楽器によるサウンド・パフォーマンスなど、さまざまな領域を横断・結合するハイブリッドなメディア芸術の世界を開拓中。芸術衛星1号機の「ARTSAT1:INVADER」でARS ELECTRONICA2015 HYBRID ART 部門優秀賞をチーム受賞。「ARTSAT プロジェクト」の成果としてメディア芸術部門で、平成27年度(第66回)芸術選奨大臣賞を受賞。

著書や監修・監訳した書籍に「消えゆくコンピュータ」「ポスト・テクノ(ロジー)ミュージック」「FORM+CODE—デザイン/アート/建築における、かたちとコード」「ビジュアル・コンプレキシティー情報パターンのマッピング」「スペキュラティブ・デザイン—未来を思索するためにデザインができること」などがある。

中村政人 (なかむらまさと/アーティスト、アーツ千代田 3331 統括ディレクター、東京藝術大学教授)

1963年秋田県大館市生まれ。アーティスト。東京藝術大学絵画科教授。美術と社会との関わりをテーマにプロジェクトを進める社会派アーティスト。第49回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2002年)日本代表。1998年よりアーティストイニシアティブコマンドN主宰。富山県氷見市、秋田県大館市等、地域再生型アート・プロジェクトを多数展開。プロジェクトスペース「KANDADA」(2005~2009)を経て2010年6月よりアーティスト主導、民設民営のアートセンター「アーツ千代田 3331」(東京都千代田区/秋葉原)を立ち上げる。著書「美術と教育」等多数。平成22年度芸術選奨受賞。2011年より震災復興支援「わわプロジェクト」、2012年より東京・神田のまちの創造力を高めるプロジェクト「TRANS ARTS TOKYO」を始動。2015年「アーツ千代田 3331」において個展「明るい絶望」を開催。

八巻真哉 (やまきしんや/京都府文化スポーツ部文化スポーツ総務課)

2015年6月より京都府文化スポーツ部文化スポーツ総務課に所属し、文化芸術による事業企画の実施・運営等にかかわる。現在アーティスト・イン・レジデンスを中心とし、京都市内全域で行う国際的な芸術祭開催にかかる準備に携わるとともに、アートが培ってきた技術を他の領域において積極的に活用していくためのアーカイヴのあり方を問う取り組みの企画をおこなっている。

小田井 真美 (おだいまみ/さっぽろ天神山アートスタジオプログラム・ディレクター)

1966年広島市生まれ。2001年から02年までとかち国際現代アート展デメテル事務局、03年よりNPO法人S-AIRに所属し、アーティスト・イン・レジデンス(=AIR)の運営、アートによる地域活性化事業、アーティスト・イン・スクールの企画、Sapporo2 Project(札幌の雪と除雪を考えるアートプロジェクト)のプロデュース。Trans Artist(オランダ)で文化政策とAIRネットワークングについて研究を行い、アークスプロジェクト(茨城)ディレクター、コマンドNと共にアーティストの移動のためのポータルサイトMOVE ARTS JAPANに携わる。札幌国際芸術祭(SIAF)2014でチーフプロジェクトマネージャーを務め、現在は札幌市のAIR施設さっぽろ天神山アートスタジオ・ディレクター、文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業協力者会議委員、AIRネットワークジャパン副代表。

<http://sapporo2.org/> <http://tenjinyamastudio.jp/> <http://movearts.jp/>

島袋道浩 (しまぶくみちひろ/美術家)

1969年生まれ。2004年よりベルリンに在住。1990年代初頭より世界中の多くの場所を旅しながら、そこに生きる人々や動物、風習や環境に関係したインスタレーションやパフォーマンス、ビデオ作品を制作している。パリのポンピドゥ・センター、ロンドンのヘイワード・ギャラリーなどでのグループ展や2003年ヴェネチア・ビエンナーレ、2006年サンパウロ・ビエンナーレ、2015年ハバナ・ビエンナーレなどの国際展に数多く参加。2013年には金沢21世紀美術館、2014年にはスイスのクンストハーレ・ベルンで個展を開催。2016年には、ロスアンジェルスやマドリッドのギャラリーでの個展を予定している。2014年札幌国際芸術祭参加作家。

<http://www.shimabuku.net/>

村田 真 (むらたまこと/美術ジャーナリスト)

1954年、東京生まれ、東京造形大学卒業。『びあ』美術編集者を経てフリーランスの美術ジャーナリスト。美術館、パブリックアート、ストリートアート、アウトサイダーアート、洞窟壁画、戦争画など、美術と社会との接点や芸術と非芸術の境界線に関心がある。おもな著書に『美術家になるには』『artscape 1999-2009 アートのみかた』、おもな共著に『パフォーマンス・ナウ』『社会とアートのえんむすび』『工事中 KAWAMATA』、訳書にジュード・ウェルトン著『絵との対話』などがある。2005年より絵画制作を再開。2011年に個展「絵画芸術」(ナディッフギャラリー)、2015年にグループ展「戦争画スタディーズ」(東京都美術館)などに出品。慶応義塾大学、実践女子大学、東京造形大学非常勤講師、BankART スクール校長を務める。